

放射線治療の プロフェッショナルを育てる

石川 正純

Ishikawa Masayori

医学研究科 准教授



石川正純さん

皆 さんは「医学物理士」をご存じだろうか。医師と診療放射線技師によって成り立ってきた放射線治療だが、機器の進歩とともに先端物理学の専門知識をもつ人材が必要になった。その人材が、医学物理士だ。医学物理士は、放射線治療を適切に行うための手順を構築し、測定による検証などによって、問題が発生すればたちに対応策を行う。石川さんは、「放射線治療は外科手術とは違い、身体に傷をつけることはなく、正常な細胞を傷める範囲も化学療法に比べて最小限に抑えるこ



棚邊哲史さん

とができます。患者さんへの負担が軽いのです」と放射線治療の有用性を説く。そして「的確な放射線の照射には、専門知識をもった人材が不可欠」と、医学物理士の重要性と人材育成の必要性を語った。

北

北海道大学は二〇〇七年度より、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択され、「医学物理士・放射線治療品質管理士養成プログラム」で医学物理士を養成している。このプログラムでは、放射線治療に関係する工学系の授業科目の他、医学系の授業科目を学び、実際の患者を対象にした治療計画の立案など、実習重視の教育が実施されている。

医

学物理士プログラムを受講している二人に話を聞いた。



木村傑さん

棚邊哲史さんは、新潟大学の学部生時代に医学物理士を知り、北大の修士課程へ進学した。二〇〇八年に医学物理士認定試験に合格。札幌市内の病院に医学物理士として勤務し、学んだ内容を実践している。また研究室では新たな放射線治療法の開発に携わる。同じく受講生の木村傑さんは北大医療技術短大を卒業後、診療放射線技師として病院に勤務。医学物理士が社会的に注目されていることを知り、自らのスキルアップを考え、放送大学で学士号を得て、北大の修士課程へ進学。二〇〇八年に医学物理士認定試験に合格した。将来的には教育・研究にも貢献したい、と話してくれた。

医学物理士への期待と要請は、今後ますます大きくなりそうだ。